

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23310180

研究課題名(和文) 極東ロシアにおける日本学の行方 国立極東大学時代(1920-1939)

研究課題名(英文) The Development of Japanology in the Russian Far East. The Period of State Far Eastern University (1920-1939)

研究代表者

A D y b o v s k i (Dybovsky, Alexander)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：70252723

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：本科研は、国立極東大学(1920-1939)及び当時の極東ロシアの日本学を考察し、アーカイブス資料に基づき、同時代の極東ロシアの実践的東洋学の意義と役割を改めて位置づけるように努めた。1930年代のロシアにおける大テロルの時代に粛清されたロシアの日本学者についての歪曲された事実を発掘し、ロシアの日本学史に大きな功績を持つ代表的な学者を始め、民間の研究者に至るまで、極東ロシアの日本学の知られざるページを究明した。本研究の成果は、2014年9月25日、大阪大学大学院言語文化研究科と極東連邦大学の地域国際研究スクール共催の国際シンポジウム「極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来」で公表された。

研究成果の概要(英文)：This research was dedicated to the practice of Japanese Studies in the Russian Far East in 1920-1939. It was mainly based on the exploration of a variety of archival materials. International group of researchers managed to shed a new light on the fate of Russian Orientalists in the era of mass terror in Russia in 1930s, and to assess the value of their works. The results of this study were presented at the International Conference "Oriental Studies in the Russian Far East: Past, Present and Future" held in the Far Eastern Federal University (Russia) on September 25, 2014.

研究分野：日本学史に関する地域的研究

キーワード：ロシアの日本学史 極東ロシアの日本学 極東ロシアの日本学者 ロシアの日本語教育史 1930年代の政治テロの犠牲者 E.G.スバルヴィン K.A.ハルヌスキー N.P.マツォキン

1. 研究開始当初の背景

ロシアの日本学の水準は極めて高いものであるとよく言われるが、その根底を作ったのは、サンクトペテルブルグ大学の東洋学部とウラジオストクの東洋学院である。本科研チームは、100年以上にわたる極東ロシアの日本学の全貌を明らかにすべく、科学研究費の助成を受けて(平成17~20年、基盤研究(B)「ロシア東洋学院における日本学の研究」)、日露の共同研究により東洋学院の教育・研究著作のデータベース化を行った。その過程で極東ロシアの日本学の歴史的意義を再確認し、世界の日本学の中でそれを改めて位置づけるには、東洋学院(1899-1920)の後継組織として設立された国立極東大学(1920-1939、1930年代には極東国立大学とも言及あり)の実態を明らかにすることが不可欠であるという認識に至った。

国立極東大学は東洋学院の伝統を受け継ぎ、質の高い日本研究や日本語教育を行ったが、大テロルの時代(1937~1938)には軍事拠点であったウラジオストクの日本学者のほとんどが日本のスパイとの嫌疑をかけられ、粛清され、国立極東大学は閉鎖された。その間の歴史的事情はどのようなものであったのだろうか。また、そうした経緯はロシアの日本学にどのような影響を与えたであろうか。そうした問題を考えつつ、粛清で歪曲された事実を発掘し、中断された学問的伝統の究明に取り組むことは、極めて重要であることを理解した。このような研究を実施することにより、世界の日本学における極東ロシアの日本学の特徴、その意義と役割を明らかにし、20世紀前半の複雑な日露関係における政治と学知編成の関連性も把握することができるのではないかという認識は、本研究の出発点であった。

2. 研究の目的

本研究は、東洋学院から実践的日本学の伝統を受け継ぎ、20年近く存続した後、1939年にソビエト政府により閉鎖された国立極東大学における日本学に焦点を当てつつ、亡命ロシア人日本学者の活躍をもふくめ、極東ロシアにおける日本学の全貌を、当時の日露関係のコンテクストの中で明らかにすることを目的とした。特に、ソビエト国家によるテロルの犠牲者となった極東ロシアの多くの日本研究者の運命を、当時のソ連の内政と外政を背景に考察し、国立極東大学の閉鎖直前に「日本のスパイ組織に加わった」として射殺され、歴史から抹殺された多くの日本学者たちの学問的業績を発掘すると共に、彼らの日露交流史への貢献を評価することで、極東におけるソ連の内外政策と日本学の実態との関連性を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

1920~30年代の極東ロシア(ソ連)の日本学者の活躍を明らかにし、その教育・研究活

動を改めて位置づけるために、以下の作業を推進した。

日本、ロシア、中国(ハルビン)の図書館、アーカイブス、外務省外交資料館などの資料を体系的に分析し、極東ロシアの日本学者の人生と活躍に焦点を当て、その教育・研究著作のデータベースを改正した。

ロシアの東洋学史を背景に国立極東大学の教員と卒業生により執筆された著作を分析し、国立極東大学とその他のロシアの教育・研究施設における日本語教育システム及び日本学的研究の分析を行った。

アーカイブスの資料、1920~30年代に極東ロシアで刊行された学術雑誌、国立極東大学の教材、授業のシラバス、国立極東大学の教授会議事録などの分析に基づいて極東ロシアの日本学者の活躍、国立極東大学における日本語教育システム、同大の教員と学生による教育・研究活動をロシアの東洋学史及び日ソ関係のコンテクストの中で評価した。

方法論としては、史料の体系的分析のほか、教育システムや教材の比較分析、日露関係を考察するにあたり政治学的分析及び社会心理学的分析が適用された。

4. 研究成果

本科研チームは、極東連邦大学等の研究者との協力の下で、極東ロシアの最初の大学である東洋学院の後継組織となった国立極東大学(極東国立大学)及び当時の極東ロシアの日本学の行方を考察し、ウラジオストク、ハバロフスク、サンクトペテルブルグ等のアーカイブス資料に基づき、日露(日ソ)政治・文化・外交関係を背景に、同時代の極東ロシアの実践的東洋学の意義と役割を著作分析等実証的な事実に基づいて評価するように努め、以下のことを明らかにした。

19世紀末に設立された東洋学院は、ロシアの日本学だけでなく、世界の日本学乃至東洋学的研究をリードする教育・研究機関であったが、国立極東大学時代には、東洋学院の実践的日本学の伝統が継承され、日本語教育や日本学的研究において1920年代の後半まで高い水準を維持することができたが、ソ連政府の極東地域大学教育政策の結果、1930年代からは、特に理論的な分野では世界的な日本学どころか、欧部ロシア(サンクトペテルブルグ・モスクワ)の日本学に比べて目立って立ち遅れるようになった。

特に、1920年代に2回(1923,1929)実施された大学教育の再編成は、国立極東大学の日本学に悪影響を与えた。E.G.スバルヴィンのような親日的な日本学者は、日ソ交流に大きな貢献をし、日ソ関係改善に努めたが、北東アジアにおける日ソ対立が強まれば、A.レイフェルトやN.マツォキンのような有能

な日本研究者は、日ソ政治対決や情報活動に巻き込まれ、その専門的な知識は、諜報機関によって使用されたとも言える。

結果的に 1930 年代後半のソ連における大テロルの時代に極東ロシアの多くの日本学者が粛清の対象となり、1939 年の国立極東大学閉鎖と共に極東ロシア(ソ連)における日本学史の二つの大きな時期(東洋学院時代、国立極東大学時代)はその終焉を迎える。

本研究の中で、ロシアの日本学史に大きな功績を持つ E.スパルヴィン、K.ハルヌスキー、N.マツオキンといった代表的な学者を始め、民間の研究者に至るまで、網羅的に取扱い、極東ロシアの日本学の多くの知られざるページを明らかにした。1930 年代の日本の新聞での A.レイフェルトの活躍にかかわる新資料、ロシア科学アカデミー歴史考古学民俗学研究所のアーカイブスで発見された K.A.ハルヌスキー夫人である E.R.Gromakovskaya-Kharnskaya の回想記の下書き、E.スパルヴィン博士のイニシアチブにより国立極東大学の東洋学部が刊行した雑誌『東洋スタジオ』の出版、あるいは外交官としての同氏の活躍に関する新資料の分析により、当時の極東ロシアの日本学及び日露の政治・文化・外交関係への新しい視座が得られた。これらの新資料や論考の出版を通して、極東ロシアの日本学の全ロシア的、さらには全世界的な意義・役割が明らかになったと思われる。

本研究の成果は、2014 年 9 月 25 日、大阪大学大学院言語文化研究科と極東連邦大学地域国際研究スクール共催の国際シンポジウム「極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来」で公表され、現代極東ロシアの東洋学に関する問題解決にも寄与したと言える。

このように、中央から遠く離れた極東という地で行われていた学問の状況を検討することによって、学問研究の自立性・地域的特性等の一般的問題にも知見が得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 25 件)

- (1) A. ディボフスキー (A.C.Дыбовский. Харнский как публицист)、時評家としての K.A.ハルヌスキー(査読有、原文露語)『言語文化研究』、第 38 号、2012 年。Pp. 93-112.
- (2) A. ディボフスキー (A.C.Дыбовский. Под сенью трех империй: Краткий очерк жизни и деятельности E.Г.Спальвина) 三大帝国の庇護の下: E.G.スパルヴィンの人生と活躍の概観(査読無、原文露語) // Oriental Studies in the Russian Far East: Past, Present and Future. Proceedings of International Conference at School of

Regional and International Studies of the Far Eastern Federal University (Russia) held on Sept. 25th, 2014. Edited by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2015. Pp. 117-138.

- (3) A. ディボフスキー (A.C.Дыбовский. О трудах и направлениях научно-исследовательской деятельности Николая Петровича Мацокина (1886-1937)), N.マツオキンの著作及びその研究活動の方向について(査読無、原文露語) // The Development of Oriental Studies in the Russian Far East. Collection of articles and bibliography. Compiled by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2014. Pp. 170-193.
- (4) A. ディボフスキー、Z.モルグン (A.C.Дыбовский, З.Ф.Моргун. Профессор E.Г.Спальвин и журнал «Восточная студия») E.G.スパルヴィン博士と『東洋スタジオ』という雑誌(査読有、原文露語)『言語文化研究』第 39 号、2013 年。Pp. 175-196.
- (5) A. ディボフスキー (A.C.Дыбовский. Карикатуры A.A.Лейферта в японской газете «Асахи» (1931)) 1931 年『朝日新聞』掲載のアンドレイ・レイフェルトの漫画について(査読有、原文露語) // Известия Восточного института ДВФУ, Vol. 1 (21). 2013 年。Pp. 117-129.
- (6) 生田美智子 (Икута Митико. Приват-доцент ГДУ Олег Плетнер: Неизвестные страницы российского востоковедения) 国立極東大学助教授 オレグ・プレトネル: ロシア日本学の知られざるページ(査読無、原文露語) // The Development of Oriental Studies in the Russian Far East. Collection of articles and bibliography. Compiled by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2014. Pp. 63-97.
- (7) 生田美智子 (Икута Митико. Н.П.Матвеев как японовед) 日本学者としての N.P.マトヴェエフ(査読無、原文露語) // Oriental Studies in the Russian Far East: Past, Present and Future. Proceedings of International Conference at School of Regional and International Studies of the Far Eastern Federal University (Russia) held on Sept. 25th, 2014. Edited by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2015. Pp. 104-117.
- (8) ヨコタ村上孝之 (Йокота-Мураками Такаюки. Б.Пилсудский и его вклад в японоведение: О женском вопросе) B.ピルストスキーとロシア日本学へのその貢献: 女性問題について(査読無、原

文露語) // The Development of Oriental Studies in the Russian Far East. Collection of articles and bibliography. Compiled by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2014. Pp. 161-169.

- (9) 藤本和貴夫、エヴゲーニー・スパルヴィン ウラジオストク東洋学院教授・在東京ソ連邦大使館書記(査読無) 『日露異色の群像 文化・相互理解に尽くした人々』長塚英雄編、東洋書店、2014年、130-157頁。

〔学会発表〕(計 11 件)

- (1) A. ディボフスキー、時評家としての K.A. Kharnsky (2011年9月6日) 第27回日露学術シンポジウム、ロシア科学アカデミー歴史考古学民俗学研究所
- (2) A. ディボフスキー、N. マツオキンの著作及びその研究活動の方向について(2013年9月5日) 第29回日露学術シンポジウム、ロシア科学アカデミー歴史考古学民俗学研究所
- (3) A. ディボフスキー、個人の経験としての文化相対主義及び文明衝突：極東東洋学が何のために存在するか(2014年9月25日) 極東連邦大学地域・国際研究スクールと大阪大学大学院言語文化研究科共催の国際シンポジウム「極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来」
- (4) 生田美智子、ロシアの日本学史における極東大学助教授オレグ・プレトネル(2014年9月25日) 極東連邦大学地域・国際研究スクールと大阪大学大学院言語文化研究科共催の国際シンポジウム「極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来」
- (5) ヨコタ村上孝之、B. ピルスドスキーとロシアの日本学へのその貢献：女性問題について(2014年9月25日) 極東連邦大学地域・国際研究スクールと大阪大学大学院言語文化研究科共催の国際シンポジウム「極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来」
- (6) 藤本和貴夫、ロシアの極東及び日本における日本学とロシア学：日露関係と日本学(2014年9月25日) 極東連邦大学地域・国際研究スクールと大阪大学大学院言語文化研究科共催の国際シンポジウム『極東ロシアの東洋学：歴史・現代・将来』

〔図書〕(計 2 件)

- (1) The Development of Oriental Studies in the Russian Far East. Collection of articles and bibliography. Compiled by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2014. - 344 頁(原文露語、英文レジュメ付)。
- (2) Oriental Studies in the Russian Far East: Past, Present and Future.

Proceedings of International Conference at School of Regional and International Studies of the Far Eastern Federal University (Russia) held on Sept. 25th, 2014. Edited by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2015. - 154 頁(原文露語)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

以下の(1)と(2)で、2014~2015年、極東大学出版社で刊行された著書の全文がPDFで提示され、(3)以降では、研究代表者であるA.ディボフスキーの主要論文(4番目は、研究協力者(極東連邦大学助教授)Z.F.Morgun氏との共著)が掲載されている。

1) Oriental Studies in the Russian Far East: Past, Present and Future. Proceedings of International Conference at School of Regional and International Studies of the Far Eastern Federal University (Russia) held on Sept. 25th, 2014. Edited by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2015.

<http://ifl.wl.dvfu.ru/category/publications/oriental-and-area-studies>

2) The Development of Oriental Studies in the Russian Far East. Collection of articles and bibliography. Compiled by A. S. Dybovsky. Vladivostok, 2014. <http://ifl.wl.dvfu.ru/category/publications/oriental-and-area-studies>

3) О трудах и направлениях научно-исследовательской деятельности Николая Петровича Мацокина (1886-1937) <http://www.jp-club.ru/?tag=dybovskij>

4) Профессор Е.Г.Спальвин и журнал "Восточная студия" <http://www.jp-club.ru/?p=2928>

5) К.А.Харнский как публицист <http://www.jp-club.ru/?p=2554>

6) О карикатурах А.А.Лейферта в японской газете Асахи (1931)

<http://elibrary.ru/item.asp?id=20301649>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

A. ディボフスキー (Dybovsky, Alexander)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：70252723

(2) 研究分担者

生田 美智子 (Ikuta, Mitiko)
大阪大学・大学院言語文化研究科・名誉教授
研究者番号：40304068

ヨコタ村上 孝之 (Yokota-Murakami, Takayuki)
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：00200270

藤本 和貴夫 (Fujimoto, Wakio)
大阪経済法科大学・学長
研究者番号：70029733

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

Z.F. モルグン (Morgun, Zoya)
極東連邦大学 (ロシア)・助教授

A.A. ヒサムットディノフ (Khisamutdinov, Amir)
極東連邦大学 (ロシア)・教授